

漢字小テストでの取り組み〜上げ底と底上げ

岡 篤（兵庫）

はじめに〜上げ底と底上げ

底上げは、実践上とても大切なキーワードです。一方、「上げ底」というと、あまりよい使われ方をしません。しかし、実践を進める上では、上げ底もときには有効です。縄跳びでいえば、ジャンピングボードです。二重跳びができない子に、ジャンピングボードを使って、練習をさせます。あと少して二重跳びができるという子はこれで行けるようになります。一回ならだけできるという子が連続でできるようになります。感覚をつかむ上では有効です。百点を取らせるのも、いわば「上げ底」といえるでしょう。

漢字ぎらいの子を前提のシステム

漢字が苦手な子は、覚えることも練習することも嫌がる場合がほとんどです。こういう子に、「がんばれ」といっても、なかなか

か力はつきませんし、まずそう簡単にはがんばりません。

そういう場合は、漢字小テストで百点をとらせることはとても効果があります。「おれ、漢字得意！」とそれまでとは打って変わって小テストに熱心に取り組むようになります。そうなってくると、覚えるコツや練習するときの集中力などもついてきます。

私は漢字が苦手な子への指導は、システム8割、個別指導2割くらいのイメージを持っています。まずは、システムです。

小テストでやる気を出させるために

現在のシステムは次のようになっていきます。

・新出漢字、宿題との連動

新出漢字は、1日2個ずつ進んでいます。

小テストは、前日の分と、前々日、さらにその前日の六個が範囲です。

宿題も、その日に習った新出漢字から始まり、前日、前々日の漢字とさかのぼるようになっています。市販の漢字ドリルを使っており、その出てくる例文や熟語を練習することにしています。新出漢字と宿題、小テストは連動しています。

・朝の会に組み込む

小テストは朝の会の最後に組み込んでいきます。「二日のどこかでやろう」では、私が忘れてしまいます。朝のうちにすませておけば、採点や点数の記録、やり直しもその日のうちにさせやすくなります。漢字が苦手な子は、やり直しもほっておくといい加減になりがちです。

・問題を黒板に、漢字に線

朝の会が始まる前に、小テストの問題を黒板に書いておきます。ちよつと気がきけば、問題を見て答えをおもいうかべてみる、わからなければ漢字ドリルで確認するということは当然やります。朝の会が始まる時

点で漢字ドリルが机の上に開かれている子がたくさんいます。

・3分で終わる

毎日続けるためには、短時間で済ますことも重要です。問題用紙を配ったらタイマーを3分にセットします。六問なので、一問あたり三十秒あります。毎日やっているとき、書くことも速くなっていきます。用紙を配り終わった後の全員の鉛筆が動いている音や集中して言う姿は、百マス計算ととても雰囲気かっています。

速い子は一分も立たずに、出します。出されたものから採点していくので、最後の子が出し終えたらときには、採点が終わっています。

進化させる さじ加減が重要

最初は、漢字にする言葉に線を引いています。「試合に負ける」という問題を出したとすると、「試合」は、漢字に書いても、「負」を漢字に直すことを忘れている子が何人もいたからです。このシステムに、慣れてきたと判断したら、まずこの線を無くします。

次に、最後の六番の問題は書かずに、「？」としておきます。つまり、出る漢字は分かっているが、熟語や例文はどうなるかが分からないということです。

ちよつと意識してドリルを見ておけばいいようなものですが、最初のうちは、それまで毎日百点だった子もこれにひっかかりました。

これを急ぎすぎると苦手な子がついてこれずに意欲を失ってしまいます。進化のさせ方は、さじ加減が重要です。

漢字がとて苦手な子に

私としてはずいぶんいいねいにすすめているつもりですが、それでもなかなかやる気が見られない子がいました。その子は、6問中正解は一問か、二問、全問間違ひも度々ありました。

前日や朝の会の前に練習させると嫌で嫌で仕方なく、少しでも早く逃れたいという様子がありありとしていました。落ち着きなくそわそわして、泣き出すこともありました。

そこで、この子だけを練習させるのはあ

きらめ、小テストの前に、「ちよつと確認しようか」と、全員に対して答えを空中に書かせたり、熟語の意味を説明させたりする時間をとるようにしました。

もちろん、私の視線は主に、この苦手な子に注がれています。

これを数回すると、その子も六問中正解が四問、五問と増えるときが出てきました。そうになると、本人のやる気も少しずつ見えてきました。

それまでいくらいつても、漢字ドリルを出そうとしなかったのに、朝の会の前には自分で問題のページを開いて指を動かすようになりました。

思ったよりも時間はかかりましたが、その子も満点を取ることができました。他の子にとっては毎日のように見ている小テストの百点ですが、その子は「おかあさんに見せてあげる」と大切に持って帰りました。それからは、小テストの前に特別に時間をとらなくても、全然できないということではなくりました。

上げ底が底上げにつながったということです。